

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2770108971		
法人名	社会福祉法人 エージングライフ福祉会		
事業所名	グループホーム フローラ		
所在地	大阪府堺市中区福田549-8		
自己評価作成日	平成 24年 11月 10日	評価結果市町村受理日	平成 25年 1月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設的な雰囲気は無く、建物内の雰囲気は家庭的であるようにしています。各利用者が居室以外でも静かに過ごせる空間を設けています。談話されている傍らで新聞を読むといった自然で落ち着ける空間です。利用者の残存能力を理解し、活かした生活が送れるよう支援しています。又認知症介護における、寄り添うケア・否定しない関係を保つ努力をしている。笑顔のある馴染みの関係作りに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2770108971-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 12月 12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養等を運営し、地域で活躍している社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。ホームは2階建てで、隣接して診療所や薬局があり、医療面での連携も進んで安心感があります。居室からは作物が豊富に実る畑が眺められ、日当たりや風通しも良く家庭的で快適に過ごせる生活環境が整えられています。また、座位式の特設浴槽を設置し利用者が安心して入浴できるようにしています。職員は介護目標を持ち、利用者の能力を活かした笑いの絶えない支援を心掛けています。利用者は食事準備や片づけ、洗濯物たため、買物などの役割を持ち、生き活きと活躍されています。近隣の子どもが玄関前に遊びに来たり、隣の畑の管理者から作物を収穫させてもらったり、近くのコンビニでは顔見知りが増えたり、近隣との関係が良く利用者は地域に馴染んで生活しています。消防署と連携して災害対策にも力を入れており、避難訓練では利用者をシーツにくるんで救済する実演を行うなど、具体的に現実的な対応を準備しています。地域住民も参加して避難訓練を行うなど、安全確保に力を入れているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を玄関に掲示し、利用者・家族・職員がいつでも目にする事が出来るようにしている。 事業所独自の理念については、各フロアに掲示している。併せて理念に基づいた介護目標を設定し、日々の業務及びケアの向上に努めている。	「個人の意見を尊重し、地域でより良く生活が継続できる場を目指す」と表記した、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をホーム玄関等に掲げ共有しています。職員は理念を日々の支援に活かし、利用者が地域の中で安心して暮らせるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方々とは気軽に挨拶を交わし、季節の野菜やお花を頂くこともある。	ホーム近くにあるコンビニやレストラン、喫茶店、理美容院などの利用をしながら、近隣との関係を深めています。近所の子どもたちがホーム玄関前広場に遊びに来て、利用者とふれあうことがあり、近隣とのより良い関係が生まれています。地域のお祭りや運動会見学ではテント席を用意してもらい楽しんでいます。近所の畑に実ったものを利用者と職員で収穫させてもらったり、コスモス等をもらったりして親交を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>日常の買い物は地域の店へ徒歩で出掛け、品物選びや支払いを自身で出来るように、お店の方の協力も得ている。</p> <p>散歩の時などは挨拶をし、近隣の方からも「お散歩ですか」と笑顔で声をかけていただいている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度定期的で開催し、地域住民の方々と交流を図る場、併せて地域から代表して自治会連合会長・民生委員・地域包括センター職員・知見・家族に参加して頂き、事業所の活動報告を行っている。</p> <p>様々なアドバイスや提案もあり質問や意見交換等サービスの向上に繋がるよう努めている。</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回の定期開催をしています。メンバー構成は家族代表、自治会連合会長・民生委員・地域包括センター職員・知見者（介護支援専門員）となっています。ホームからは利用者の近況報告や行事報告、今後の予定等をお知らせしています。最近の会議では、参加者から「家族同士の集まりについて」「意見箱について」「地域に認知症の理解を深める取り組みについて」「地域包括支援センターの活動について」等、積極的な発言があり、意見交換をしています。出された意見や助言は速やかに、ホーム運営に活かしています。</p>	<p>運営推進会議日程は「フローラ通信」等を活用して全家族に通知し、参加を呼びかけてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括担当者の出席もあり、相談・助言をしていただきやすい環境となっている。 又、入所状況を堺市に報告も行っている。	市の担当者にはホームの空室情報や入居状況、報告書等を提出し、市からも新たな情報があれば提供を受けています。福祉課から担当者の面会を受けたり、成年後見制度の活用等についても連携したりしています。また、困難事例等については、地域包括支援センターに相談しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。 身体拘束委員会より拘束の無いケアに取り組むように努め職員も理解している。	法人主催の「身体拘束防止委員会」や勉強会に参加して、伝達講習を行い、職員の理解を深めています。管理者は、一人ひとりの職員が「身体拘束をしないケア」について、正しく理解ができるようにサポートしています。玄関もエレベーターも施錠せず、利用者が外出を希望される場合には、職員が寄り添って散歩に出るなどの対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の勉強会を通じて学んでいる。スピーチロックと捉えられないよう、注意が必要な時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	精神科に毎月通院されている利用者があり、自立支援医療症の申請等に携わることが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの不安や疑問点があれば、管理者が責任を持って説明と同意を行い、理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時は、要望・意見など傾聴し管理者に報告。 会議の場で話し合う。 又、意見箱も設置している。	利用者の体調等に変化があればすぐに家族に連絡をして対応方法等、相談をしています。家族が来られたら利用者の状況を報告し、家族の意向等を確認して対応しています。担当職員は、家族へ写真入りの手紙を書いて送付し、利用者の近況をお知らせするなどして意向を確認しています。運営推進会議には家族代表が参加して、ホーム運営等について、発言をしています。また、家族が意見を出しやすいよう、玄関に意見箱を設置しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月夜勤以外は全員参加とし、意見や提案を聞く場を設け反映させている。翌月は反映できているか、振り返り話し合っている。	毎月、業務会議を開催し、職員が意見を出し合い、討議してまとめた内容についてホーム運営に反映しています。管理者は、常に職員の声に耳を傾け、ホーム運営の課題については職員と共に考え、職員が働きやすいように工夫するなどの努力をしています。また、キャリアパス（資質向上）に向けての取り組みを行っており、個別に面談を行う中で、職員が掲げた資質向上の目標が実現できるように助言等を行っています。	管理者は、今後も接遇等の研修に力を入れ、職員のさらなる資質向上を支援する予定にしています。今後の取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員の声や勤務状況を把握できるように努力している。 又、個々の心配事や悩みなど相談できる環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が認知症実践者研修に参加。職員も同じ研修に参加し、一人一人のサービスの質の向上を目指せるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度の中区グループホーム連絡会へ参加し、交流や意見交換、情報交換を行なっている。 又、今年度より中区全体で認知症の啓発運動にも取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に家族より話を伺い情報を得る。その中で安心していただき関わりを多く持つよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活に対する不安及び要望は常に本人・家族と話が出来やすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者の移動により家族とのこれまでの信頼関係を壊さないよう、挨拶や言葉遣いなどに注意を払い、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段家で生活しているパターンに近づけ朝食準備・後かたづけ・洗濯たたみ等できることを継続し、教えていただいたことに感謝の念を忘れず、接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月フローラ新聞で日々の暮らしの様子を伝え家族が安心していただけるような報告をしている。 又、家族の協力が必要な時は協力いただき、共に本人を支えていく努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に面会に来る方もいる。	友人や知人が面会の際、面会簿が記入されており、職員は馴染みの関係が途切れないよう、支援しています。旧友や遠く離れた親戚等へ、手紙や年賀状などを書く機会を設けたり、ポストに入れたりする支援をしています。また、ホーム内に公衆電話を設置しており、利用者が馴染みのある人々へ電話をかけやすい環境作りをしています。家族と共に、馴染みのレストランや理美容院等へ、定期的に出かけている利用者もおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、より良い関係を築けるように支援している。 時々利用者同士が衝突することはあっても、職員が間に入り、事が大きくならないように注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方はおられないが、必要に応じて相談や支援を行なうつもりである。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス前には全職員より意見及び情報を収集している。その人の望んでいる暮らしが継続できるようなカンファレンスを開催している。	利用者一人ひとりに「私の暮らし方ノート」を作成し、職員間で共有して利用者の思いや意向を大切にする支援をしています。職員は利用者の個性や特徴を理解しており、聞こえにくい利用者にはメモを書いて説明するなどの工夫をしています。また、言葉で表せない利用者には、しぐさや表情を見て意向をくみ取り、安心して過ごせるように支援しています。職員は利用者が食材の盛り付けや配膳、食後のテーブル拭き、洗濯物をたたむなど、得意な場面で役割を持ち、活躍できるように支援しています。	
----	---	--	---	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りだけでなく、本人の様子など把握している。 又、本人や家族にも情報を頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護管理日誌・申し送りノート、朝・ターの申し送りで現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催の前に全職員に今の気づきの情報を集め、現在の状況に合った出来ることの介護計画を作成している。 又、家族参加の利用者もいる。	職員一人ひとりが担当する利用者や家族の意向を確認し、情報や課題を事前にまとめて出し合い、計画作成担当者が計画にまとめてサービス担当者会議で提案しています。介護計画書は3カ月に1回モニタリングを行い、6カ月ごとに見直しをしています。利用者の状況に変化があればアセスメントを行い、随時見直しをしています。介護計画書は、利用者・家族に説明をし、了承サインをもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の状況表に気づきや日常の変化等を記入し、職員間でケアを共有しながら実践し介護の見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人が外出及び買い物を希望された時はすぐに対応できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・夏祭りの見学をした。 又、今年の敬老会にはクレネ堺にて落語の鑑賞を楽しんだ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接した、かかりつけ医と連携を取り夜間のオンコール体制や緊急時の対応体制も整っている。	本人や家族の希望に沿った医療機関で、適切な医療が受けられるよう支援しています。医療機関への受診については家族に同伴してもらい、主治医との話し合い等も行われています。家族の都合が悪い場合には、職員が付き添って受診しています。内科、歯科については、希望があれば協力医療機関からの往診を受けることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週1回健康チェックを行なっている。 又、職員の質問・相談にも説明や助言など指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会やケースワーカー・担当看護師と状態の確認や今後の方向性など情報交換を行なっている。 又、かかりつけ医による緊急時には協力医療機関へ迅速に診察が受診できるよう連絡してくれる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があった時は、家族に報告し、医師も交えて話し合い意向の確認をしながら可能な限りのケアをチームで支援している。	重度化した場合の対応については入居契約時に本人・家族に説明を行い、了承を得ています。重度化した場合には可能な限りホームで支援を行うよう職員間で確認しています。また、重度化した場合の対応については、家族と主治医を含めた話し合いの機会を設けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の勉強会に「緊急時の対応」の項目を掲げており、参加を促している。参加できなかった職員は、資料にて自主学習を行い、対応を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況		実践状況		
					次のステップに向けて期待したい内容		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を行っている。 又、災害時のマニュアルも各自がいつでも閲覧できるようにしている。		地震・災害マニュアル、非常食マニュアルを作成し、年2回の消防訓練や災害時避難訓練を行っています。訓練時には、近隣住民が参加されることもあります。消防署職員の派遣を受けて、利用者も避難訓練に参加していることを、記録や写真に残しています。ホームでは、非常食マニュアルに沿って3日分の飲み水や食料品を保管しており、職員は消費期限等の確認を含めた備蓄管理を定期的に行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけのトーン・言動は意識して対応している。 人格を尊重した言葉かけを行い、食事・トイレ誘導の対応をしている。		職員は言葉かけや対応など、一人ひとりを尊重した対応をしています。管理者は職員が適切な接遇を行えるように研修を行い、記録管理等についても保管場所を決め厳重にしています。また、職員採用時にはプライバシー保護について研修を行い、雇用契約書を交わしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で馴染みの関係を作り、本人が思いや希望を話しやすい環境に努め、自己決定の出来る声かけをしている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人自身のペースで過ごしている。利用者からの希望があったときは、その都度支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	下着が汚れてくると、身だしなみを気にされ、買い物を希望される方もいる。その都度支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に調理を行い、メニュー作り、盛り付けなどを行っている。 又、月1回季節に応じた調理レク・おやつレクを取り入れている。	ご飯やおかゆはホームで炊き、副食は3食とも調理されたものが業者から届きます。職員と共に盛り付けや配膳をして活躍されている利用者もおられます。月に1～2回、利用者と献立を作り、買物をして、季節に合わせた食事作りや、おやつ作りを行う調理レクリエーションを楽しんでいます。また、隣接する畑の作物を提供してもらい、旬の野菜を調理して味わったり、プランターで育てたトマトなどを添えることもあります。定期的に、家族と外食に出かけて楽しんでいる利用者もおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の偏り、摂取量の少ない方は、経口栄養剤で、対応している。 又、自宅での習慣で毎日お粥の方にはお粥の提供をし対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科医・衛生士により、利用者に合わせた口腔ケアを行なっている。毎食後口腔ケアを実施している。誤嚥性肺炎の予防にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用、その人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声かけを行い自立に向けた支援を尾かなっている。	一人ひとりの排泄リズムを把握しており、おむつ類を極力使わない支援をしています。また、夜間はポータブルトイレを活用し、利用者が排泄しやすいようにしています。排泄で汚れた部分は専用のおしぼりを使って清潔を保ち、利用者がいつでも気持ちよく過ごせるよう取り組みながら、自立支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分・食事量を把握し、おやつ前の体操及び散歩も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週3回入浴は設定しているが、毎日入浴している方もいる。 一日を通していつでも入浴できる、個々に沿った支援をしている。	一人ひとりの利用者が、週3回の入浴ができるように支援しています。利用者の希望があれば、予定外の日でも入浴することができます。1階には座位式の特設浴槽を設置しており、利用者が安心して入浴することができます。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを用意して楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調及び希望に沿っていつでも自由に休息をしている。 又、高齢の方は午後からの臥床も取り入れ、室温等にも気を配っている。 朝食は本人の希望でゆっくりの方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬に関わり薬ケースは色分けし、薬情を記載している。 又、用法・用量について理解した上で医師との相談を行い、適切に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日1階2階のメニュー書きや薬局へ週4回薬の受け取りに行くなど、役割を担ってもらえるよう支援している。 又、気分転換で利用者皆でカラオケを楽しむ支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日は近隣の散歩に出掛け、行事レクリエーションで外出を取り入れている。 今年の秋はハーベストの丘に行く予定です。 又、秋のだんごり祭では、自施設の前を巡行され利用者全員見学して大変喜ばれた。	気候の良い時期には、毎日のように散歩や買い物に出かけ、近くの畑で野菜等を収穫し、楽しんだりしています。しかし、猛暑の時期や寒い時期には室内で過ごすことが多い状況です。年間行事では、日頃行けない場所へドライブに出かけたり、花見や花火大会、運動会、お祭り等に出かけ楽しんだりしています。	ホームでは今後の取り組みとして、外出レクリエーションの回数を増やし、ボランティアの力を活かして内容も充実していく予定です。今後は、取り組みの成果が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と理解を得て、自身でこづかい程度を管理され、買い物や電話をかけている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	施設の電話を使用し、家族に電話をかけている方もいる。 又、家族に手紙を書き職員と一緒に、ポストに投函される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には長いすを置き気の合うかた同士、会話ができるようにしている。 又、フロアは季節に合った壁画を利用者と共に作成し、1ヶ月の行事予定も貼りだしわかりやすい表示もしている。	ホームの中央に日当たりの良い食堂兼談話室があり、その横にサブリビングやキッチンがあり、廊下は広くバリアフリーになっています。サブリビングにはゆったりと座れるイスを置き、利用者や面会者がくつろげる多目的スペースにしています。トイレは各階に4カ所あり、スライド式のドアにして使いやすくしています。1階の浴室には、特殊浴槽を設け、入浴環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いサブリビングにソファを設置し、談笑ができるスペースとして利用されている。 又、一人でゆっくりくつろいでいる利用者もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・ポスターを壁一面に貼られている方、馴染みのタンスを置かれている方もいる。自然に自分の部屋と認識できるようにしている。	居室は見晴らしがよく、窓の外には畑やガレージが広がり、風通しや日当たりが良く工夫されています。利用者は馴染みの机やイス、タンス、テレビ、ぬいぐるみ、写真、シルバーカー、エアマットなどを活用して過ごしやすいです。各部屋には洗面台が設置されており、使いやすく清潔感があり、居心地の良い居室になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの為移動は車椅子自走、手摺を持ちながらの移動等残存機能が活かせるサポートを行なっている。		